

## 2011 年度地球市民ひろば

「しまくとぅばと先住民のアイデンティティー」

◆日時：2011 年 10 月 19 日（水）19：00～21：00

◆場所：沖縄キリスト教学院大学 シャローム会館 1-1

◆ゲスト：御冠船歌舞団

（仲兼久キース幸仁、イングブランドン明夫、和田エリック春夫、金城ノーマン）

◆参加者：11 名（スタッフを含む） ◆担当：岸本

◇御冠船歌舞団の紹介

◇参加者自己紹介

期待すること：ハワイでの沖縄文化継承活動から学びたい／言葉とアイデンティティーってどのような関係があるのか／現在の沖縄や文化、伝統の再生化について聞きたい／沖縄文化の現状、またそのために何ができるのかいろいろな意見を聞いてみたい／言語復興の中でどんな教育、政策がされていたのか／いろいろな話が聞きたい／沖縄における言語と文化の再生について意見共有したい

◇「かじゃでい風」の演奏

◇ハワイの言語復興について

・プーナナレオ（ハワイ語を子どもたちへ教えていくための学校）について

言語は私たちのアイデンティティーであり、先祖とつながっているもの。ハワイのプーナナレオ幼稚園から高校まである。プーナナレオは子どもたちから始まり、子どもたちの両親もハワイ語の学校へ行く。

・現在 100%のハワイアンは4万人しかいない。アメリカが入ってきてから差別が始まった。

・ハワイの先住民は、土地を失い非常に苦しい生活を強いられた。

・ハワイ語の復興で自分たちのアイデンティティーと誇りを取り戻した。

◇沖縄の言語復興について

・沖縄を除く、ほとんどのアジア地域では自分たちの言語を使っている。

・60代～70代の世代の人々は方言札でウチナーグチを禁止されていた。

・子どもたちはウチナーグチを知らない、ウチナーグチを話す世代でも子どもたちにウチナーグチで話しかけない。

・沖縄の文化の基盤、深い部分を理解していない。表面的な文化の継承、それに対して何も気にしていない沖縄にとっても危機感を感じる。

◇今後何をするのか

「みなさんはこのディスカッションの後は何をするのですか。このディスカッションを続けても、その次のレベルで何もしなければ終わります。何度も何度もディスカッションをしても、その次のレベルで何かしなければ、その時間は無駄だと思います。」という言葉が最後にもりました。

◇へ ハヴァイ アウの演奏

—参加者の感想—

- ・学校で日本史は習うけれど、沖縄史を扱うのは沖縄戦が主で、あまり時間が取られていない。
- ・子どもたちは、他府県の人と自分たちとは何か違うなっていうのを感じてはいるんだけど沖縄のことをあまり知らないから自分の意見を持つことができないのだと思います。
- ・次世代につなげていくためには、プーナナレオのように言葉や文化、歴史を教える教育はとても大切なものだと改めて感じた。
- ・キースさんの最後のコメントに心がふるえた。小さいことでもいいから、何かを始めたい。少しずつやっていることを広げていきたい。
- ・しまくとうばやハワイの事例を通して、今までと違った視点で沖縄文化を見直すことが出来たのが良かった。
- ・最後のキースさんのメッセージはプレッシャーを感じるがマオリのおばあちゃんのことを思い出して頑張っていきたいと思いました。
- ・今日はハワイの話がたくさん聞いてよかった。ひとつ残念だったのが若い人が全然しゃべっていないこと。エリックさんも言っていたとおり、ムーブメントの中心は大学生です。若い人から話しを引き出したり、ハワイ側の人のお話をまとめる役割の人が今日の場にたりなかったと思います。